

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるよう!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(平成8年5月20日第三種郵便物認可)

2005(平成17)年2月15日 第384号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭
発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話03(3269)1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



—— 今月の主な紙面 ——

- 1面 第33回日本総合健診医学会が開催
- 2面 大腸がん検診ガイドライン公表に先立って公開フォーラム
・厚労省がん研究班
「産業医訪問」第63回
連載「『いびき』よもやま話」第5回
- 3面 連載「健康教育放浪記」第10回
健康づくり・健康増進を支援するページ 第17回
- 4面 第199回ヘルスケア研修会「就業形態多様化時代の健康管理」
聴覚障害者のための胃X線検診車を導入・本会
甲状腺超音波カンファレンス開く・本会
お知らせ
人・往来

生涯にわたる健康づくりを主眼に

第33回日本総合健診医学会が開催

がん検診や総合健診の あり方で講演や発表

昨年8月、健康増進法に基づく「健康診査の実施等に関する指針」が示された。この指針は、生涯にわたる健康増進にむけた健診を実施するために、それぞれの制度間で異なる保健事業の基本的な共通事項を定めたものである。いっぽう、がん検診についても、専門家による検討会が設置され、科学的根拠に基づいた見直しが行われている。昨年6月には「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」のうち、乳がん・子宮がん検診の指針が改正されたほか、「大腸がん検診のガイドライン」がまもなく公表される見通しである。1月28、29日の2日間にわたって大阪市の大阪国際交流センターで開催された日本総合健診医学会第33回大会(大会長 大橋秀一健康保険組合連合会 大阪中央病院院長)では、「癒しの未来を求めて」をテーマに、人々の癒しや健康づくりに役立つ健診のあり方をめぐって、さまざまな講演や発表が行われた。

死亡率減少に有効な検診をめぐってがん検診の見直しが進められている。こうした動きを受けて、今大会のシンポジウムでは、乳がん検診と消化器がん検診が取り上げられた。



部長(写真左)と題したシンポジウムが開催された。

このうち、乳がん検診については、40歳以上を対象に、隔年で実施し、マンモグラフィによる検診を原則とするが、当分の間は視触診併用も可能とした新指針の内容をふまえ、乳がん検診の現状と課題(座長 遠藤登喜子名古屋医療センター放射線科)

シンポジウムでは、まず乳がん検診の第一線で活躍する5人の専門家が、わが国の乳がんの特徴、指針の改正にいたる経緯、乳がん検診の現状と課題、マンモグラフィ検診における精度管理の重要性と「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」の役割、超音波による検診の展望、それぞれの取り組みの実際などについて発表を行った。

その後の総合討論では、「乳腺濃度が高濃度である30歳代から40歳代についてはマンモグラフィに超音波検診を併用することが有効とされる。しかし、超音波検診をマウス・スクリーニングに広げるにあたっては検査技師の育成や精度管理などの課題が残る」といった点が指摘され、超音波検診に携わる医師や技師の教育システムの構築、全国的な精度管理のあり方などをめぐって活発な議論が交わされた(写真下)。

「消化器がん検診の現状と課題」(座長 渡邊能行京都府立医科大学大学院教授)では、地域検診や職域検診における胃がん・大腸がん検診の現状と課題、内視鏡専門医からみた大腸がん検診の課題、科学的根拠に基づいた大腸がん検診の評価などについての発表が行われ、その後会場での活発な質疑応答が行われた。

また、教育講演「健康診断の費用対効果 早期発見の値段」では、清島啓治郎PL大阪健康センター所長が講演を行った。清島所長は、肺がん前立腺がん、大腸がんなどの病期別の医療費比較や、「東京から肺がんをなくす会」におけるヘルカルCT導入前と導入後の病期別肺がん発見率の推移を示し、精度の高い検診による早期発見で得られる経済効果を強調した。

このほか、特別講演では、河盛隆造順天堂大学教授による「糖尿病診断と治療の現状」、松澤佑次住友病院院長による「肥満と生活習慣病」、田村政紀日本総合健診医学会理事長による「総合健診の機能評価」が行われたほか、市民公開講座では、田原総一郎氏による「2005年時代を読む」や日野原重明聖路加国際病院理事長による「人はいづまで健康観をもって生きられるか」が行われた。

このうち、乳がん検診については、40歳以上を対象に、隔年で実施し、マンモグラフィによる検診を原則とするが、当分の間は視触診併用も可能とした新指針の内容をふまえ、乳がん検診の現状と課題(座長 遠藤登喜子名古屋医療センター放射線科)

また、教育講演「健康診断の費用対効果 早期発見の値段」では、清島啓治郎PL大阪健康センター所長が講演を行った。清島所長は、肺がん前立腺がん、大腸がんなどの病期別の医療費比較や、「東京から肺がんをなくす会」におけるヘルカルCT導入前と導入後の病期別肺がん発見率の推移を示し、精度の高い検診による早期発見で得られる経済効果を強調した。

東京都予防医学協会
ホームページニュース

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

「よぼう医学」の全紙面を掲載しています。
セミナーやヘルスケア研修会のお知らせを随時掲載しています。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は 予約制)
電話 東京(03)3269-1131

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

コンサルテーションのご案内

2月 2日 岡 惺治 (健康管理コンサルタント)	3月 2日 岡 惺治
9日 三輪祐一 (東京都予防医学協会総合健診部長)	9日 三輪祐一
16日 岡 惺治	16日 岡 惺治
23日 三輪祐一	23日 三輪祐一
	30日 第200回ヘルスケア研修会につき休み